

平成30年度第2回岐阜県図書館協議会議事要旨

- 1 開催日時 平成31年2月20日(水) 午後1時25分～午後3時25分
- 2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1
岐阜県図書館 2階 特別会議室

3 会議日程

- ・館長挨拶
- ・委員長挨拶
- ・議 題

○ 協議事項

- (1)平成30年度図書館評価の中間報告について
- (2)第2次岐阜県図書館の運営方針(案)について
- (3)平成31年度アクションプラン(案)について

- 4 委員の現在数 10名

- 5 出席委員等の人数及び氏名 9名

委員長	高橋 博美
副委員長	浦部 幹資
委員	加藤 真人
委員	金森 さちこ
委員	高木 誠
委員	長瀬 とも
委員	野々村 修一
委員	堀江 弘美
委員	山川 紗奈

事務局出席者

鍋島館長、藤田副館長、中山総務課長、矢島企画課長、多田担当主幹兼
企画振興係長、五十川管理調整係長、村田資料係長、近藤図書利用係長、
和田調査相談係長、渡辺郷土・地図情報係主査

県民文化局出席者

浅野文化伝承課長

岐阜県教育員会出席者

森岡学校支援課教育主管

- 6 議事の経過及び結果

[午後1時25分、藤田副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った。]

(鍋島館長挨拶要旨)

今回の協議会では、本年度のアクションプランの取組状況について報告した後、来年度からの今後5年間の当館の航海にあたっての海図となる運営方針と、それに基づく来年度のアクションプランについて検討をお願いすることとしているので、よろしく願いたい。

次期運営方針については、前回の協議会で骨子素案を示し、各委員からいただいた意見を踏まえ、運営方針の素案を作成し、さらに各委員の意見照会を経て、本日、最終案を配布した。先の協議会の時点から大きく進展、変化した事項についていくつか紹介させていただく。

三本柱の一つ目、「社会的課題解決の支援」について、岐阜大学医学部・同附属病院と連携し、7月に養護教諭等を対象にした「がん教育指導者研修会」、8月に小学生親子・女性を対象とした「がんリレー講座」、10月には広く一般県民を対象とした「大腸がん県民公開講座」、11月に企業の経営者、人事・労務担当者を対象とした「がん治療と仕事の両立支援セミナー」と様々ながん講座を開催した。4つの企画を合わせて参加者が1,100人を超え、一定の成果を得たと考えている。

二つ目の「郷土を知り学ぶ機会の創出」について、明智光秀の生涯を描く来年度の大河ドラマ「麒麟がくる」を受け、清流の国文庫に「明智光秀コーナー」を設けた。また、これまで古地図のみで行っていたデジタル化、オープンデータ化について、「関ヶ原軍記」等の貴重な郷土資料についても、新たに実施することとした。

三つ目の「世界に開かれた交流の場の創出」におけるフランスのオ＝ラン県との交流について、9月に職員2名を現地に派遣し、今後の具体的な交流について先方との調整を行い、現在、絵本の相互交換に向けた作業を進めている。

中核図書館としての基盤強化と推進連携について、来年度行う情報システムの更新に合わせ、セキュリティの強化、ウェブサイトのスマートフォンへの対応やよりアクセスのしやすさの向上を図り、また、アウトリーチサービスの充実として、紺野美沙子名誉館長朗読会の県内遠隔地での新規開催やビジネス支援の視点に立つ電子書籍の導入を予定している。

また、来年度は地上駐車場の整備やロビー・多目的ホールの吊り天井、多目的ホールの音響・照明設備等の改修工事を予定しており、事前に周知を図るなど利用者に理解をいただけるよう広報を進めていきたい。

最後に、今後とも引き続き、岐阜県の中核図書館としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えているので、委員の皆様には変わらぬご支援、ご鞭撻を願いたい。

[事務局から本日の出席者について、委員10名中、9名が出席しており、定足数に達している旨を報告した。]

(高橋委員長挨拶要旨)

委員の皆様には、日頃から岐阜県図書館の様々な取り組みに対し助言をいただき感謝申し上げます。

高校生の読書率が低かったり、活字離れと言われて久しいが、本校では、先週まで読書週間として朝読書の取組みを行った。本の魅力にめざめてくれる生徒もいて、一定の効果が出ていると思う。

また、生徒の周りにはインターネットを中心に様々な情報が氾濫しているが、出自や出所がはっきりした情報は非常に大きな価値がある。その意味でも岐阜県図書館をはじめとする公的図書館の出元のはっきりした膨大な情報が集積している場所は貴重であると思うとともに、そこにアクセスする手段をいかに確保するかが、これからの課題であると思う。

今後も岐阜県図書館が岐阜県内の図書館の中核として、一層役割を果たしていけるよう少しでもお役に立ちたいと思っているので、委員の皆様からも関連な意見をお願いしたい。

[委員長は、議題の協議事項である、(1)平成30年度図書館評価の中間報告について、事務局の説明を求めた。]

[事務局(矢島企画課長)から、協議事項(1)平成30年度図書館評価の中間報告について説明]

[委員長は、協議事項(1)平成30年度図書館評価の中間報告について、委員の発言を求めた。]

(加藤委員)

地図資料・郷土資料のデジタル化に関し、資料に「利用者のニーズを捉え」という表現があるが、極端に言えば、ニーズがなければやらないという意味なのか。このような資料はニーズに関係なく揃えた方がよいと思う。

(渡辺主査)

個人のニーズに加え、団体のニーズや展示などによく利用された資料は一般の方の興味関心が高いのではないかとということで、今後、優先順位をつけてデジタル化する資料を選んでいくという意味でこのような表現とした。

(加藤委員)

これまでに古地図のデジタル化を2,850点ほど済ましたとの説明があったが、あとどのくらい残っているのか。

(渡辺主査)

古地図のデジタル化については、今後3年間で、毎年100枚程度ずつ実施していく予定である。また、古地図と並行して、近年手をつけていなかった江戸時代から明治にかけての貴重な郷土資料をデジタル化し、遠くの方でも閲覧できたり、ダウンロードもできるような機能をつけていきたいと考えている。

(浦部委員)

今後、郷土資料のデジタル化も進めていかれることについては大変期待している。

ただし、新聞記事にもあるように20年前にデジタル化された古地図は低画質で、文字も読めず、このような資料があるということも課題である。

現在は、学問的に利用したいという要求があるので、文字まで読めるレベルの資料にしていただきたい。

平成31年度以降、郷土資料のデジタル化を行い、システム更新に合わせて公開するという説明は、こういくことを汲んでの話なのか。

(鍋島館長)

他県に先行して地図のデジタル化を実施したため、当時は高精度のデジタル化ができておらず、資料のなかでも貴重なものや利用頻度が高いものが低画質でアップされている状態である。今後、順にデジタル化を進めると優先度の低い資料が高精度のものということになるので、すでにデジタル化をしている資料についても利用者のニーズが高いなど改めて高精度でデジタル化をした方がよい資料は優先して進めていきたい。また、郷土資料のデジタル化についても利用者のニーズなど優先順位を踏まえながら進めていきたい。

(加藤委員)

様々な企画展示をされているが、記載のある入場者数ほどのようにカウントされているのか。

(多田担当主幹)

企画展示室の入口にカウンターをつけ、入る人、出る人2回で1人としてカウントしている。なお、ロビーや楽書交流サロンで行う展示については、オープンスペースなのでカウントできない状態である。

(長瀬委員)

資料の収集・保存に関し、各市町村図書館は蔵書数が限られているので、相互貸借やレファレンスなどで県図書館の蔵書に頼ることが大きく、そのため県図書館がどのような図書を収蔵しているか興味がある。各分野の専門家による蔵書評価とは具体的にどの

ようなことをしているのか。今年度は法律分野を実施したということであるが、これまでどのような分野の蔵書評価を行ったか。

(村田係長)

蔵書評価は平成25年度から開始し、これまでに美術館職員に美術関係、県の保健師等に健康・医療・障がい・福祉関係、高等学校や大学の先生に外国語教育や海外情報関係、工業技術センター職員に技術関係、岐阜県産業経済振興センターの職員に経済関係の蔵書を見ていただいた。今年度は、県弁護士会の協力を得て法律分野の評価をしていただいた。

今後については、音楽分野など手をつけていない分野を順次見ていただく予定にしている。

[委員長は、一旦質疑等を打ち切り、協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針(案)について、及び(3)平成31年度アクションプラン(案)について事務局に説明を求めた。]

[事務局(矢島企画課長)から協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針(案)について、及び(3)平成31年度アクションプラン(案)について説明]

[委員長は、協議事項(2)第2次岐阜県図書館の運営方針(案)について、及び(3)平成31年度アクションプラン(案)について委員の発言を求めた。]

(浦部委員)

来年度も意欲的に多彩な事業をされる中で、特に紺野美沙子名誉館長の朗読会を図書館から外へ出て、岐阜市以外の地区で開催するという取り組みはとても素晴らしいことだと思う。

また、外国人県民への支援について、ブラジル、フィリピン、ベトナム人向けの資料の充実を図るという説明があったが、難しいのはそういう方々に実際に来ていただくことだと思う。図書館にこういった資料があることをどのように伝えるつもりなのか。

(鍋島館長)

多文化共生の観点から資料を入れることを決めたが、周知方法まで考えてなかったため、今後、国際担当課と効果的な方法について相談のうえ考えていきたい。

(浦部委員)

評価指標のうち、サービス満足度については、調査するとだいたい満足度は高く出ることが、具体的にどこが評価され、どこが評価されていないか、図書館の内部で把握できる

ようにしておいてほしい。

また、資料の貸出冊数の指標にしても、今後の蔵書構成の指針となるよう、こういった傾向の資料が借りられているかなど把握できるようにしておいてほしい。

(金森委員)

今回のアクションプランは、県の第3次教育ビジョンに基づいて作成されているので、よいと思う。

先日、乳幼児向け絵本の売上げが少しあがっているという新聞記事を読んだが、要因として、おじいちゃん、おばあちゃん世代が孫のために絵本を購入されている現状があるので、お父さん、お母さん向けに加え、おじいちゃん、おばあちゃん向けの孫育ての本などの充実を図ると来館者も増えるのではないかな。

学校図書館との連携に関し、LGBT関連や道徳関連の絵本を多く購入し、セット文庫として貸していただけるとありがたい。

先ほど、ブラジル、フィリピン、ベトナムの方に図書館に外国人向けの雑誌があることを発信する方法について話があったが、外国の方は銀行等で送金されたりするので、金融機関やコンビニ等の協力を依頼し、チラシを置かせていただければどうか。

(多田担当主幹)

最近、孫育て用の絵本はかなり多く出ているので、子育て支援コーナーに置いて充実を図っている。また、今後、セット文庫の新たなテーマとしてLGBT関連や道徳関連の絵本も検討していきたい。

(高木委員)

多岐にわたってイベント等を開催されているが、集客を増やすということであれば、駐車場の整備などインフラをどうしていくかも課題となってくると思う。

駅や県庁駐車場からのシャトルバスの活用など、イベントを開催しても図書館に来ることができない方にどのように対応するか検討していただけるとありがたい。

(鍋島館長)

現在の駐車場の標記が東、西、西門前など初めての来館者に分かりづらいことを承知しているので、来年度の平面駐車場の整備に合わせて美術館と相談して全体として分かりやすい駐車場のサイン計画を検討していきたいと考えている。

また、大規模なイベント時には、岐南工業高等学校や年金事務所などの駐車場を臨時駐車場として借りているが、図書館から少し離れていることもあってなかなか利用が進まない実態があるので、公共交通機関での来場の呼びかけやシャトルバスの活用なども含めて検討していきたい。

(野々村委員)

岐阜大学では、国際に力を入れていて、現在、留学生が 365 人まで増えてきている。中国のほか、特にベトナム、インドネシアからの留学生が多くなっている。4月からはインド、マレーシアとジョイント・ディグリー（共同学位）を出す新しいプログラムを始める予定でいる。

ついては、海外の雑誌を少し遅れてもよいので岐阜大学に回していただけると留学生も喜ぶと思うので配慮いただけるとありがたい。

また、現在、名古屋大学と連携し、一法人複数大学ということを進めている。機構という経営をする組織の下に各キャンパスがぶら下がるという構造となるが、各大学の図書館が直接機構にぶら下がる可能性もあることで、ご迷惑をおかけすることになるかもしれない。

(鍋島館長)

岐阜大学付属図書館とは雑誌の件を含めてまだ連携できることがあると思うので、相談させていただきたい。

(野々村委員)

退職教員が本を多く図書館に寄贈してくれるが、重複資料はかなり廃棄しているので、価値がある資料については県図書館で活用していただけるとありがたい。

(堀江委員)

来年度のイベントには、子ども向け、中学生向けのもの、郷土の歴史に関するもの、子どもたちに伝えていきたいような企画展示など多く予定されているが、県PTAや市PTAから各学校に直接、情報を伝える機会があるので、連携して進めていけたらと思う。

また、先日、岐阜市校長会の主催で、「不登校」に関する講演会が開催されたが、先生方も若い保護者も関心が高かったので、そういった情報を提供できる機会があると喜ばれるのではないかとということで提案をさせていただきたい。

(鍋島館長)

県PTAの方で県図書館のPRをさせていただける機会がありましたら相談をさせていただきたい。

また、不登校の件に関しては、県教育委員会とも相談のうえ、できることを見つけていきたいと考えている。

(山川委員)

図書館ウェブサイトでの有用なデータベースを紹介するという説明があったが、具体

的にどういうことを紹介するのか。

(矢島課長)

ビジネス支援関連に「M i e N a (ミーナ)」というデータベースがあるが、これを利用すると特定の地域の人口や年齢構成等が分析可能となり、今後、起業したい方の参考となると思うので、そういったことができることをPRしていきたい。

(高橋委員長)

アウトリーチサービスの充実について、紺野美沙子名誉館長の朗読会を岐阜市以外の地区で開催するという説明があったが、このほかどのようなアウトリーチサービスを考えているか。

また、学校図書館支援と学校司書育成の強化の中で、係長級学校司書による学校図書館支援事業を推進するという説明があったが、中身を教えていただきたい。

(鍋島館長)

アウトリーチサービスに関しては、前回の協議会で、飛騨や東濃地域など遠隔地の方へのサービスが不十分であることが分かったので、今年度、音楽配信サービスや宅配サービスを開始した。

さらに来年度から電子書籍のサービスを始めようと考えている。まずはビジネス支援の観点から地場産業や工業関係など、自営業の方々が商売のうえで必要となる専門書からそろえたいと考えている。

また、学校図書館への支援については、これまで若い学校司書のスキルアップの仕組みがなかったということで、今年度から県教育委員会の協力と各高等学校の理解を得て、学校司書のうち係長クラスの職員にそれぞれの地域のエリアマネージャーとして各地域の学校を年間数回、巡回してもらい、その学校の司書の指導をしたり、相談に応じたりするというのを始めた。今後、特別支援学校への支援を含め充実を図っていきたい。

(加藤委員)

活字離れは新聞業界でも同じで、いかに新聞を読んでいただくかということは、本を読んでもらうかということと共通する課題だと思う。

アクションプランにある電子書籍の取り組みや親子で図書館探検というようなイベントを開催されているようであるが、小さい頃から図書館に親しむ習慣をつけてもらうことは非常に有効な手立てであると思う。子どもたちがわくわくするような企画をしていただけるとよいと思う。

また、電子書籍については、県として全体をまとめていただけるような取り組みができるとコストの効率運用の面からもよいと思う。せめて、リンクを貼って相互に使いやすくしていただけるとよい。

先日、盲学校の先生から新聞の電子版の活用について相談を受けたが、盲学校には弱視の方も多くみえ、文字が大きければ読めるということでスマートフォンやタブレット端末を活用されているようである。書籍についても有効性が高いと思うので、皆さんの使い勝手のよいようにいろんな工夫をしていただけるとありがたい。

[委員長は、協議事項に対する質疑意見を打ち切り、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[今後のスケジュールについて説明]

次回の協議会の開催は、平成31年7月頃の開催予定。

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時25分に閉会宣言した。]